



KOURAKUEN  
HOLDINGS

各 位



平成 30 年 10 月 26 日

会 社 名 株式会社 幸 楽 苑 ホールディングス  
代表者の役職名 代表取締役社長 新 井 田 傳  
(東証第一部 コード番号 7 5 5 4 )  
問い合わせ先 取締役IR担当部長 室 井 一 訓  
T E L 0 2 4 - 9 4 3 - 3 3 5 1  
<https://hd.kourakuen.co.jp/>

## 第2四半期累計期間の業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想の修正、 剰余金の配当(中間無配)に関するお知らせ

当社は、平成 31 年3月期第2四半期決算及び最近の業績動向等を踏まえ、平成 30 年5月 11 日に公表いたしました平成 31 年3月期第2四半期累計期間の業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想の修正、剰余金の配当(中間無配)につきまして、下記のとおりお知らせ申し上げます。

### 記

1. 平成 31 年3月期第2四半期累計期間の業績予想値と実績値との差異について  
(平成 30 年4月1日～平成 30 年9月 30 日 )

(1)連結業績予想値と実績値との差異

(単位:百万円)

(単位:円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株 当 たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	19,329	446	400	263	17.76
実 績 値 (B)	20,226	992	931	732	49.37
増 減 額 (B-A)	897	545	530	469	—
増 減 率	4.6%	122.0%	132.2%	177.9%	—
(ご参考) 前期第2四半期実績	19,605	△181	△180	△640	△43.22

(2)個別業績予想値と実績値との差異

(単位:百万円)

(単位:円)

	売 上 高	経 常 利 益	四半期純利益	1 株 当 たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	6,824	236	151	10.20
実 績 値 (B)	6,758	164	120	8.13
増 減 額 (B-A)	△65	△71	△30	—
増 減 率	△1.0%	△30.3%	△20.3%	—
(ご参考) 前期第2四半期実績	7,207	145	△247	△16.71

2. 平成 31 年 3 月期通期業績予想の修正について  
 (平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

(1) 連結業績予想の修正

(単位:百万円) (単位:円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	38,446	629	585	269	18.18
今回修正予想 (B)	39,343	1,175	1,115	739	49.79
増減額 (B-A)	897	545	530	469	—
増減率	2.3%	86.5%	90.5%	173.8%	—
(ご参考)前期実績 (平成 30 年 3 月期)	38,576	△72	△114	△3,225	△217.64

(2) 個別業績予想の修正

(単位:百万円) (単位:円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	13,430	300	181	12.24
今回修正予想 (B)	13,365	228	150	10.16
増減額 (B-A)	△65	△71	△30	—
増減率	△0.4%	△23.8%	△16.9%	—
(ご参考)前期実績 (平成 30 年 3 月期)	13,989	162	△585	△39.53

3. 差異が生じた理由及び通期業績予想の理由について

(1) 第 2 四半期累計期間の業績予想値と実績値の差異について

(連結業績)

売上高につきましては、豪雨や台風による天候不順等の影響があったものの、「味の改革」やマーケティング戦略の見直しにより、既存店客数前期比が計画 92.5% に対して実績 97.6% と計画値を 5.1 ポイント上回ったことにより、前回予想を上回る結果となりました。

利益面につきましては、既存店売上高の計画比上振れ並びに無料クーポン券等の見直し、製造コストの低減等に加え、「働き方改革」推進・サービス向上に向けた店舗営業時間短縮や就労コントロールによる人件費等の低減により、営業利益、経常利益、四半期純利益につきましても前回予想を大幅に上回りました。

(個別業績)

物流コストや経営管理コストの増加等により、経常利益、四半期純利益ともに前回予想を下回りました。

(2) 通期業績予想の修正について

当社グループが属する外食産業におきましては、原油高などを受けた原材料価格やガソリン価格、物流費等の上昇に加え、社会構造の変化や消費者の生活防衛意識の高まりを背景に、業種・業態を超えた異業種間の顧客・人材確保競争が激化し、引き続き厳しい経営環境が続くことが見込まれます。

第 3 四半期以降の見通しにつきましては、上半期の施策を継続するとともに、品質(商品・サービス)改革の強化を推進し、既存店客数の改善に努めてまいります。

通期の業績見通しにつきましては、既存店客数前期比 96.1% を見込んでおり、利益面につきましては、就労コントロールや店舗作業改革による販管費の低減を見込んでおります。

この結果、第 2 四半期累計期間の業績を勘案するとともに、第 3 四半期以降の経営環境の状況から、前回予想の通期業績予想に対して、連結・個別ともに上記のとおり修正いたします。

(注) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、予想につきましては様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

4. 剰余金の配当(中間無配)について

(1)中間配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (平成30年5月11日公表)	前期実績 (平成30年3月期)
基準日	平成30年9月30日	同左	平成29年9月30日
1株当たり配当金	0円00銭	—	5円00銭
配当金の総額	—	—	74百万円
効力発生日	—	—	平成29年12月1日
配当原資	—	—	利益剰余金

(2)理由

当社は、株主に対する配当方針を重要政策のひとつと考えており、会社の競争力を維持・強化して、株主資本の拡充と同利益率の向上を図るとともに、配当水準の向上と安定化に努める方針であります。

しかしながら、剰余金の配当(中間配当)につきましては、未定としておりましたが、第2四半期連結累計期間の業績並びに通期の業績予想を勘案し、財務体質の改善と内部留保の充実を優先し、誠に遺憾ではございますが、中間配当を無配とさせていただくことといたしました。

なお、期末配当予想につきましては、引き続き「未定」とさせていただきますが、今後、予想が可能となった時点で、速やかにお知らせいたします。

(参考)年間の配当の内訳

基準日	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	年間
前回予想	—	—	—
今回修正予想		—	—
当期実績	0円00銭		
前期実績 (平成30年3月期)	5円00銭	0円00銭	5円00銭

以上